東亜同文書院記念基金会　記念賞・功労賞・奨励賞のこれまでの受賞者

（各受賞者の肩書は当時のもの）

第1回 平成5（1993）年度	平成5（1993）年11月5日
記念賞	**上海交通大学 中日科技研究会** ・会長は翁史烈上海交通大学学長 ・科学技術および教育に関する日本の資料を中国の学生向けに刊行するなど、日本事情を中国に紹介する活動を継続。吉川信夫氏（東亜同文書院45期生）が私財を投じて同会を支援。
記念賞	**谷光隆氏** ・元愛知大学教授 ・東亜同文書院の大旅行調査を研究し、『大運河調査報告書』を刊行。 ・ほかにも『明代河工史研究』など著書多数。
記念賞	**菅野俊作氏** ・東北大学名誉教授 。東亜同文書院41期生 ・中国人留学生を支援し、専用の寮を自力で建設。 ・1998年の死去前日に、来日した江沢民国家主席と対面した際のエピソード（江主席が上海交通大学出身であることから、戦争中東亜同文書院が交通大校舎を使用していたことを陳謝）はドキュメンタリー番組になった。
第2回 平成6（1994）年度	平成6（1994）年9月16日
記念賞	**林文月氏** ・台湾大学名誉教授 ・源氏物語や枕草子ほか、日本の古典文学を中国語に翻訳刊行。 ・現代台湾の十大散文家の一人。
記念賞	**栗田尚弥氏** ・埼玉大学講師 ・1993年に新人物往来社より『上海東亜同文書院 日中を架けんとした男たち』を刊行。 ・愛知大学東亜同文書院大学記念センターの公開講演会・シンポジウムでは、現在に至るまで定期的に講演。
記念賞	**白川正雄氏** ・東亜同文書院42期生 ・出征したスマトラに戦後インドネシア独立のため永住し、戦火で焼失したモスクを再建するなど、戦後のインドネシアの建設に貢献。
記念賞	**村上和夫氏** ・長野県中国文化研究会副会長。東亜同文書院35期生 ・日本全国の国分寺研究を発展させ、中国古代瓦当文様の研究を行い、その成果を刊行。 ・地元の社会福祉事業にも尽力
第3回 平成7(1995)年度	平成7（1995）年9月13日
記念賞	**藤田佳久氏** ・愛知大学文学部教授 ・東亜同文書院の大旅行調査報告書を解読し、『中国との出会い』、『中国を歩く』等、東亜同文書院生の大調査旅行記録をさらに逐一活字化し刊行中。また「幻の名門校東亜同文書院」の実体を初めて浮かび上がらせた。 ・のち愛知大学東亜同文書院大学記念センター長に就任し、同センターの運営・研究両面の中心的役割を担う。
第4回 平成8(1996)年度	平成8（1996）年9月6日
記念賞	**ダグラス・レイノルズ氏** ・ジョージア州立大学歴史学部副教授 ・東亜同文書院の大旅行調査を研究し、それが戦後米国で発展した地域研究（ Area studies ）よりも古い歴史を持つ優れたものであることを検証し、『地域研究の知られざる起源 日本の東亜同文書院』（“Chinese Area Studies in Prewar China: Japan’s Tōa DōbunShoin in Shanghai, 1900-1945,”）を発表して広く世に紹介した。
記念賞	**陳弘氏** ・東亜同文書院44期生 ・日中要人の会談の通訳を務めたほか、人民日報の東京特派員として日中友好の促進に貢献した。
第5回 平成9(1997)年度	平成9（1997）年10月7日
記念賞	**遠山正瑛氏** ・鳥取大学名誉教授 ・日本砂漠緑化実践協会を設立。日本からの植林ボランティアを指導し、内蒙古のグプチ砂漠で植林事業を長年にわたり継続。中国環境保全と地元の沙漠産業活性化に貢献。
第6回 平成10(1998)年度	平成10（1998）年9月24日
研究奨励賞	**薄井由氏** ・上海復旦大学大学院修士課程 ・東亜同文書院の大旅行に関する研究をすすめ、中国で紹介。 ・のちに『東亜同文書院大旅行研究』（奨励賞受賞後）も刊行。大学院修了後は長野県職員として一時期勤務した。
研究奨励賞	**水谷尚子氏** ・日本女子大学大学院博士課程 ・東亜同文書院中華学生部を研究し、論文「東亜同文書院に学んだ中国人」で同学生部の業績を紹介。 ・研究奨励賞受賞後は『中国を追われたウイグル人―亡命者が語る政治弾圧』などを刊行し、毎日新聞社主催の「アジア・太平洋賞」特別賞を受賞した。

第7回 平成11(1999)年度 記念賞 研究奨励賞	平成11(1999)年9月28日 **翟新氏** ・上海復旦大学大学院修士課程修了。慶應義塾大学大学院法学研究科後期博士課程 ・東亜同文会の日中近代史における足跡を研究、論文として発表。2001年に慶應義塾大学出版会より著書『東亜同文会と中国』を刊行した。 **劉永誌氏** ・愛知大学大学院文学研究科博士後期修士課程。博士学位取得 ・タクラマカン砂漠の困難な現地調査を行い、その日本語論文は辺境の地誌学的研究として高く評価され学位を取得した。
第8回 平成12(2000)年度 記念賞	平成12(2000)年9月29日 **名古屋テレビ「青春の中国」取材班** ・「青春の中国～甦る東亜同文書院の夢～」を制作、放送。そこでは、東亜同文書院の「日中の架け橋を」という理想に生きた書院生の青春と、それを現代に受け継ぎ、中国天津の南開大学愛大会館で現地プログラムを学ぶ愛知大学現代中国学部学生の姿を生き生きと描いた。
第9回 平成14(2002)年度 記念賞	平成14(2002)9月26日 **西所正道氏** ・2001年に角川書店より『上海東亜同文書院風雲録』を刊行。東亜同文書院卒業生たちの活躍の足跡を追うことにより、東亜同文書院の建学の精神が世紀を越えて現代に生き続ける姿を広く世に紹介した。
第10回 平成15(2003)年度 記念賞	平成15(2003)年9月24日 **工藤俊一氏** ・青森県出身。東亜同文書院41期生 ・東京タイムズ社で編集局、総務局、出版局勤務を経て、教育出版社文泉の設立に参加。1984～90年まで北京で人民中国雑誌社と中国画報社の外国人文教専家として、翻訳や取材執筆活動などを行う。 ・1995年から97年までの2年間、北京大学で外国人文教専家として教壇に立つ。その時の経験をもとにした 『北京大学超エリートたちの日本論』(講談社、2003年)を刊行し、各方面から高い評価を得た。
第11回 平成16(2004)年度 記念賞	平成16(2004)年9月29日 **今泉潤太郎氏** ・愛知大学名誉教授、元東亜同文書院大学記念センター長 ・愛知大学卒業直後、1955年に学内で発足した「華日辞典編纂処」(後の「中日大辞典編纂処」)の一員となる。その後定年退職までの間、愛知大学で中国語を学生に教授するかたわら、『中日大辞典』の編纂と刊行に長年献身的に力を注ぎ、同辞典の内外における高い評価形成に多大なる寄与をした。
第12回 平成17(2005)年度 記念賞	平成17(2005)年10月7日 **大森和夫氏・弘子氏夫妻** ・国際交流研究所所長 ・大森和夫氏は1989年に新聞社を定年前に退職し、国際交流研究所を設立。和子夫人と共に、アジアの若者に日本語で日本と日本人を理解してもらう活動を開始。日本語教材を中国の大学に寄贈するなど、日中文化交流活動を続けた。
第13回 平成18(2006)年度 記念賞 奨励賞	平成18(2006)年12月8日 **テレビ宮崎** ・「新民先生―ふりかえりみて悔いなき時なり」の番組を制作、放送。そこでは、戦時中、強制連行で九州に連れて来られ、炭鉱で過酷な労働を強いられた中国人労働者を親身にかばった勇気ある日本の青年、新名言志氏(東亜同文書院44期生)の精神と行動力のルーツを辿るヒューマンドキュメンタリーとして描いた。 **成瀬さよ子氏** ・愛知大学豊橋図書館司書 ・愛知大学豊橋図書館所蔵の霞山文庫(旧東亜同文会蔵書)に対する、東亜同文書院卒業生やご遺族の関心の深さを知ったことが契機となり、東亜同文書院大旅行誌の目録作成を行い、さらに東亜同文会や東亜同文書院に関して記された図書・論文を整理し、2004年に『東亜同文書院関係目録―愛知大学図書館収蔵資料を中心に―』を作成、刊行した。
第14回 平成19(2007)年度 記念賞	平成20(2008)年1月29日 **浅川義基氏** ・東亜同文書院43期生、戦後愛知大学2期生として卒業。 ・商社に入り、中国経済事業で長年活躍。また、1986年より北京国際元老テニス大会に連続21年間出場する中で、会の推進的役割を果たし、日中友好と国際親善のために尽力した。
第15回 平成20(2008)年度 記念賞	平成21(2009)年1月30日 **工藤美代子氏** ・高校卒業後、ヨーロッパの大学へ留学。1982年に『晩香坡の愛』を執筆して以降、ノンフィクション作家として多くの著作を発表したほか、『われ巣鴨に出頭せず』(日本経済新聞社、2006年)において、文麿公の行動を論理的に検証したが、これは従来の東京裁判史観によるものとは異なる文麿像を明らかにした点で、画期的な作品であった。
第16回 平成21(2009)年度 記念賞	平成22(2010)年1月27日 **葉敦平氏** ・上海交通大学校史研究室 ・2004年～2006年まで霞山会(東京)と校史研究室が共同で、東亜同文書院の上海交通大学キャンパスの占用や両校の近隣同士の友好関係などを、史実に基づき組織的に研究する際の中国側代表を務めた。また、そうした日中共同研究の成果として、2006年に同研究室で中国における東亜同文書院に関する『資料選集』を編集した。

第17回　平成22（2010）年度	平成23年（2011）年1月26日
記念賞	**小坂文乃氏** ・東京の日比谷にある松本楼の取締副社長 ・著書『革命をプロデュースした日本人』（講談社、2009年）で、孫文に対し多大の援助を与えながら「一切口外シテハナラズ」として、革命運動の隠れた援助者であった小坂氏の曽祖父・梅屋庄吉の生涯を明らかにした。
記念賞	**愛知大学中日大辞典編纂所** ・1955年に元東亜同文書院教員の鈴木擇郎先生らにより「華日辞典編纂処」としてスタート以降、東亜同文書院中国語教育のシンボルともいうべき辞典編纂に長年取り組み、1968年に『中日大辞典』を日本で初めて刊行。2010年には中日大辞典第三版を刊行した。
第18回　平成23（2011）年度	平成24年（2012）年1月24日
功労賞	**藤田佳久氏** ・愛知大学名誉教授、東亜同文書院大学記念センター・フェロー、元東亜同文書院大学記念センター長 ・2006年度～2011年度までの間、愛知大学東亜同文書院大学記念センターが「文部科学省学術高度化推進事業（オープン・リサーチ・センター・プロジェクト）」に採択され、東亜同文書院大学記念センター長として事業運営に尽力。 ・東亜同文書院生による大調査旅行記録について、2011年に5巻目の『満州を駆ける』を刊行（全5巻）。 ・2011年10月3日から12月28日まで「東亜同文書院の群像」を執筆し、刊行。東京新聞・中日新聞・北陸中日新聞で60回連載された。 ・2013年度～2018年度の「文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」の応募申請にも貢献し、さらに大旅行研究をすすめ書院卒業生の軌跡について研究中。
奨励賞	**武井義和氏** ・「文部科学省学術高度化推進事業（オープン・リサーチ・センター・プロジェクト）」でポスト・ドクターであった時、青森県弘前出身で孫文支援者として活躍した山田良政、純三郎兄弟にまつわる記念センター所蔵資料の中から、純三郎四男の順造氏が整理されていた写真資料をもとに、山田兄弟の生涯を明らかにした『孫文を支えた日本人』を出版。 ・また、日中共同研究の成果として上海交通大学校史研究室が編纂した『資料選集』（2006年）を翻訳。
第19回　平成24（2012）年度	平成25年（2013）年1月25日
奨励賞	**保坂治朗氏** ・元中央大学附属高校教員の保坂氏は、それまで実態があまり分からなかった東京同文書院を実証的に研究。 ・東亜同文書院大学記念センターの書院研究ではなかなかアプローチできなかった空白部分を埋め、時代背景にも言及しつつ、東亜同文書院のある種の原点を解明した。
奨励賞	**有森茂生氏** ・2008年以来、東亜同文書院関係の図書、資料文書、写真、レコードなど、多岐にわたる史資料をほぼ毎年のように収集し、東亜同文書院大学記念センターに寄贈され、記念センターの展示や研究に大きく貢献された。
第20回　平成25（2013）年度	平成26年（2014）年1月28日
記念賞	**岡部達味氏** ・東京都立大学名誉教授、（財）霞山会元理事（25年間） ・中国政治・外交分野で学界や論壇を先導されたほか、その学識を生かし日中間交流にかかわるさまざまな分野の事業に多大なる貢献をされた。 ・在シンガポール日本大使館研究員、在中国日本大使館特別研究員、東京都立大学教授を歴任。1988～89年までアジア政経学会理事長として我が国のアジア研究の発展に貢献され、1997年～2001年まで日中両国の政府諮問機構である日中友好21世紀委員会日本側座長を務められ、日中間の相互理解促進に寄与された。
功労賞	**平井誠二氏** ・東亜同文書院3期生大倉（旧姓江原）邦彦氏が1932（昭和7）年設立した大倉精神文化研究所（本館建物は横浜市指定有形文化財）の研究部長。 ・学問と精神修養の一大殿堂をめざした大倉精神文化研究所は、神道、佛教、儒教の三教を中心に、当時一流の学者による学術的研究をとおして、「純粋学問」だけでなく「現実社会」をも常に視野にいれ、世の人々に役立つことを目標に掲げた。大倉氏の幅広い分野での実績を研究紀要『大倉山論集』において、多くの研究者を動員して明らかにされた。 ・東亜同文書院に関する研究も多く、資史料収集をすすめつつ発展させ、さらに2003（平成15）年以来、愛知大学との共催の公開講演会を毎年開催し、東亜同文書院と愛知大学の存在を広く知らしめてこられた。